

2015年度インターンシップ実施報告

— インターンシップ単位化への対応 —

THE 2015 INTERNSHIP PROGRAM REPORT OF THE DEPARTMENT OF BUSINESS CAREER, SENDAI SEIYO GAKUIN COLLEGE.

— A WAY FOR ACADEMIC CREDIT FOR INTERNSHIP —

小形 美樹 青山美智子 今井恵美子

Miki OGATA Michiko AOYAMA Emiko IMAI

キーワード：インターンシップの単位化、短期大学、キャリア教育、職業訓練、地域

要 旨

仙台青葉学院短期大学ビジネスキャリア学科では2013年度入学者用カリキュラムより「インターンシップ」が演習分野の単位修得科目として導入されたが、学生に対する支援体制が不十分で、キャリア教育や職業訓練としての役割を果たし切れていなかった。そこで、2015年度は学科教員3名がプロジェクトチームを組み、短大生が受講しやすく成長感が見込めるように授業改善を試みた。本報告ではこの1年間の成果および明らかとなった課題について報告する。

1. はじめに

わが国における「インターンシップ」は、文科省（2015）の資料によれば、1997年9月に当時の文部省・通商産業省・労働省の3省が合意した「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」を公表したことが契機となり制度として導入された。この3省合意で「インターンシップ」は「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」と定義され、以後、多くの教育機関で導入が進んだ。しかしながら、3省合意の前年の1996年から2013年までの17

年間の間にインターンシップの単位化を行っている大学数は104校から542校へと5倍強に増加したものの、参加学生の割合は低く、2013年でも2.4%に留まっているのが現状であるという。

本学ビジネスキャリア学科においても2013年度入学生から「インターンシップ」の単位化を行い、1年次の選択科目として配当してきたものの、学生の履修状況が芳しくなく、また、担当教員の経験や力量によって「キャリア教育」や「職業教育」としての効果が左右されることが2年間の実施を経て明らかとなり、授業を改善する必要性に迫ら

れてきた。そこで、3年目を迎えた2015年度には、「インターンシップ」科目を青山美智子・小形美樹・今井恵美子の3教員が担当することとし、プロジェクトを組んで授業改善に取り組むこととした。

本稿では、「インターンシップ授業改善プロジェクト」により明らかとなった「インターンシップ」授業の課題と解決方法、そして、教育成果について報告し、さらには今後の展望について言及する。

2. 仙台青葉学院短期大学ビジネスキャリア学科の「インターンシップ」授業

先述したように仙台青葉学院短期大学ビジネスキャリア学科では、「インターンシップ」を2013年度入学生のカリキュラムで初めて正課の1年次選択科目に位置づけた。そして、この科目は直接的にも間接的にも就職試験対策に関わることから、就職支援を常々行っている学生総合支援センターの職員に担当教員となってもらった。その効果もあり、この年度に履修登録した学生は78名、そして、学科1年在籍者の約4分の1にあたる29名が単位取得しており、導入初年度にしては良好な結果だったと言えよう。

しかしながら、この職員が2013年度前期で退職してしまっただけで、翌2014年は同内容の授業を新任教員が担当することとなり、履修登録者は8名、うち単位取得に至った学生が2名と減少した(表1)。

表1 「インターンシップ」受講者と単位取得者の推移

	1年在籍者数	履修登録者数	単位取得者数
2013年度	119	78	29
2014年度	113	8	2
2015年度	149	149	23 (2016. 1. 29見込)

(注1) 1年次集中科目として実施。

(注2) ビジネスキャリア学科では2年次に1年次科目が履修できるが、2年生の履修登録はなし。

(注3) 2015年度は、全学生に履修登録を促した。

この理由としては、新任教員に対する前任者からの引き継ぎ期間が皆無であったこと、新任教員自身の経験が不足していたこと等が挙げられるが、このような受講者の大幅な減少は、教員個人の問題

ではなく学科全体の問題であると我々は考えた。また、高等教育においてインターンシップが重要視されるようになった現在、学科として「インターンシップ」授業を正課科目として適切に提供しているのか否かを精査する必要性があると感じた。

そこで、2015年1月の学科会議においてインターンシップ授業のあり方について教員間で審議が行われ、2015年度は青山・小形の2名が「インターンシップ」科目を担当し、授業の改善を行うこととなった。そして、「インターンシップ」授業の過去2年間の問題点を探り、「キャリア教育」および「職業訓練」として意義のある科目へと転換が図れるよう、「インターンシップ授業改善プロジェクト」を発足させた。さらに、4月からは異動してきた今井が「インターンシップ」授業の担当者に加わり、プロジェクトには3名体制で取り組むこととなった。

3. 「インターンシップ授業改善プロジェクト」の実施状況

「インターンシップ授業改善プロジェクト」では、まず、2013年度担当者が作成したシラバスと他大学の「インターンシップ」授業のシラバスを比較しながら、シラバスの改訂を行った。その後、インターンシップの実施や支援を行っている地域の公益財団法人と一般社団法人の協力を仰いだり、インターンシップ担当者向けの研修会に参加したりして、学生指導や事務処理等の改善点を探った。実際に授業がスタートしてからも、改善すべき点や学生指導で注意すべき点などの課題が見つかり、さらには学内外との折衝や調整など多くの業務が発生した。そのため、2015年1月から2015年12月までに行ったプロジェクト検討会は16回、外部の研修会への参加は2回、外部団体との打ち合わせは7回にのぼった(表2)。

4. 「インターンシップ」授業を提供する側の課題

以上の取り組みにより、まず、「インターンシップ」を単位化して学生に提供する側である学校や

表2 インターンシップ授業改善プロジェクトの実施状況

No.	年月日	会議名	出席者	内容
1	2015年1月27日	第1回PJ検討会	青山・小形	新シラバス検討
2	2015年2月7日	外部研修会	小形	地域のインターンシップに関する勉強会
3	2015年2月13日	外部との打ち合わせ	外部2名・青山・小形 佐藤健一(学生総合支援センター)	事前研修について確認
4	2015年3月11日	第2回PJ検討会	青山・小形	インターンシップ事前研修日程
5	2015年3月27日	外部との打ち合わせ	外部2名・青山・小形	事前研修日程(外部担当分)確認
6	2015年5月4日	第3回PJ検討会	青山・小形	日程と内容確認・ガイドブック
7	2015年5月11日	第4回PJ検討会	青山・小形	授業内容確認
8	2015年5月12日	外部との打ち合わせ	外部2名・青山・小形	授業内容確認
9	2015年5月20日	第5回PJ検討会	青山・小形・今井	授業内容確認
10	2015年5月26日	第6回PJ検討会	青山・小形・今井	報告書等フォーマット検討
11	2015年5月26日	外部との打ち合わせ	外部2名・青山・小形・今井・学生1名	授業内容確認
12	2015年6月10日	外部との打ち合わせ	外部2名・青山・小形・今井	インターンシップ紹介について
13	2015年6月24日	外部との打ち合わせ	外部1名・担当教員1名	インターンシップ紹介について
14	2015年7月8日	第7回PJ検討会	青山・小形・今井	トークイベントについて確認
15	2015年7月14日	第8回PJ検討以下	青山・小形・今井	トークイベントについて確認
16	2015年7月16日	外部との打ち合わせ	外部1名・青山・小形	インターンシップ紹介について
17	2015年7月28日	第9回PJ検討会	青山・小形・今井	インターンシップ書類の検討
18	2015年7月29日	第10回PJ検討会	青山・小形・今井	インターンシップ書類の修正
19	2015年8月4日	外部研修会	青山・小形	インターンシップ等実務者研修会
20	2015年8月11日	第11回PJ検討会	青山・小形・今井	インターンシップ実施推薦者検討
21	2015年9月9日	第12回PJ検討会	青山・小形・今井	トークイベントについて確認
22	2015年9月25日	第13回PJ検討会	青山・小形・今井	学生から預かった報告書の確認
23	2016年9月30日	第14回PJ検討会	青山・今井	2年生向けトークイベントについて
24	2016年10月16日	第15回PJ検討会	青山・小形・今井	外部機関HP掲載の写真や記事の確認
25	2016年12月7日	第16回PJ検討会	青山・小形・今井	報告会実施方法の検討

教員、そして地域における課題が4点ほど明らかとなった。

4.1 受講者および受入企業に関する情報不足

プロジェクトではシラバス作成にあたり、ビジネスキャリア学科のカリキュラムの全体構成や学年暦を踏まえたうえで、学生の資質や学力、就職先企業の業種や職種に合わせ、教育効果が見込めるような授業計画を立てなければならないと考えた。また、単位認定の基準を明確にしなければならない。そのためには、既卒者の就職先情報のみならず、これまでのインターンシップ参加者や受入実績企業と実習内容の詳細などの情報を収集する必要がある。

しかしながら、過去のインターンシップに関する情報は、学生が学生総合支援センター経由で参加したものや単位取得に直接結びつけたもの以外は入手が困難であった。つまり、学生が自ら開拓して自由に参加したものについては、学生自らが支援センターに届けられない限り、記録そのものが存在しないのである。おそらく、学生が単位取得を目的とせずに参加した「インターンシップ」につ

いては今後も大学側が情報を収集することは難しいであろう。

また、2013年度および2014年度にインターンシップを単位に結びつけた学生が作成した記録についても、前任者が成績評価後に学生に返却するなどしていたようで、入手が困難であった。

以上のことから、2015年度の「インターンシップ」授業においては、学生にきちんと記録を作成させ、次年度以降の授業運営や学生指導に活かせるよう、データを保存しておくこととした。

4.2 キャリア支援部門とインターンシップ担当教員の連携

「インターンシップ」の単位化には、キャリア支援部門である学生総合支援センターとインターンシップ担当教員の連携が必要不可欠なことが改めて認識された。2013年度は求人やインターンシップ情報の窓口となっている学生総合支援センターの職員が「インターンシップ」科目の授業を担当したため、学生に対して企業からの情報が速やかに伝達され、またインターンシップ時期に合わせた事前研修が行われていたが、2014年度は教員が

担当したため、学生に対する情報提供や事前研修の日程調整などを円滑に行うことが難しかったようである。

昨今の大学では教員・職員とも業務量が増大しており、また、「インターンシップ」を単位化するのであれば、教育は教員、就職支援はキャリア支援部門の職員と単純に割り振ることもできまい。「インターンシップ」のような科目については、教員個人の力量に頼り過ぎたり、職務分掌を曖昧にしたりすることを避け、キャリア支援部門と担当教員が密に連絡を取り合い、情報を共有することが必要であろう。

4.3 「インターンシップ」書類の未整備

「インターンシップ」の単位化にあたっては、受入先企業に対する依頼文、受入先企業からの学生に対する評価表、学生自身が提出する報告書等、さまざまな書類が整備されていなければならない。しかしながら、このような書類についても、教員が自分の担当年度にその都度新たに作成・配布・回収していたことが判明した。大学教員の専門領域に関する講義資料の数々は教員個人のノウハウが詰まった貴重な財産であり、当然のことながらこのような資料については、他大学に転出する際に残していくということはあるまいであろう。

しかしながら、「インターンシップ」のような科目の場合、大学と受入先企業とで交わした契約書や学生が大学側に提出する報告書などの書式は、組織で作成し保管すべきものである。また、受入先企業でも担当者が変わる都度、書式が変わるのでは対応しづらいであろう。大学によっては、「インターンシップ」のような科目については、教員が年度ごとに当番制で対応していることもある。さらに、今後「インターンシップ」科目の充実を図っていくためには、学生指導の際に既修得者が作成した報告書を活用することも必要となる。よって、担当教員で協議して、早急に定型の書類を作成することとした。

なお、大学教員はプロフェッショナルである以上、Gouldner (1958) がいうように所属する組

織に忠誠心をおくローカルではなく、自分を活かせる組織が見つければ転出するというコスモポリタンという行動規範をとる。また、昨今は任期付の教員が増えている。よって、本学のみならずこの大学でも「インターンシップ」を単位化するにあたっては、いつ・どの教員が担当することになっても、標準的な対応ができるよう書式を整えておくことは必要不可欠であろう。

4.4 地域における受入先企業の不足

先述したように、仙台青葉学院短期大学ビジネスキャリア学科では「インターンシップ」を正課科目としたのが2013年度であり、単位取得者数をみても2013年度が29名、2014年度が2名と2か年度分を合わせても31名の上、学生が単位取得にこだわらずに実施したインターンシップの状況については把握できなかったため、単位化を理解し受け入れてくれる企業がどの程度あるか予測できない状況であった。また、アルバイト禁止の学則をもつ高校や仙台市以外の出身の学生も多く、入学してすぐにインターンシップ先を自己開拓できるか否かも教員側としては不安であった。そこで「自己開拓」を基本としながらも、学内で実施する事前研修等に協力してくれるキャリア支援団体からも積極的にインターンシップ先を紹介してもらい、少しでも多くの学生が参加できるように布石を打った。協力を仰いだキャリア支援団体は、仙台青葉学院短期大学が目指す「地域社会に貢献し得る実学教育」に結びつくインターンシップ先企業を常々開拓している仙台市内に本部をもつ公益財団法人と一般社団法人であった。なお、2団体とも大学生向けのキャリア支援に関するさまざまなサービスを国や都道府県の委託等を受けて実施しており、学校側から斡旋料や講義料等の支払いは不要であった。

5. 「インターンシップ」授業の情報と管理

4. に挙げた課題はすべて情報の未整備や管理不備から生じたことであり、2015年度は以下のように取り組んだ。

5.1 インターンシップ情報の共有

インターンシップの情報については、学生総合支援センターおよび担当教員が入手した都度、メール連絡等で互いに共有するようにした。また、データはイントラネット上で確認ができるよう電子化して、教職員の共有フォルダーに投稿するように

した（図1）。また、インターンシップの実施状況がわかるよう、教員が「参加者名簿」を作成し、学籍番号・氏名・インターンシップ先・実習期間・報告書提出日などを入力し、同じく共有フォルダーに投稿し、職員および教員が常に確認できる状態とした（図2）。

名前	更新日時
インターンシップ受入先(掲示用)	2015/08/28 11:13
インターンシップ担当者研修	2015/09/09 11:57
インターンシップ募集要項	2015/09/18 11:13
	2015/12/01 9:40
学生用 書類	2015/12/11 13:40
学内教員講義	2015/11/05 10:24
活動報告書(終了後) 様式4	2015/10/21 11:00
	2015/11/02 15:36
講義DVD	2015/07/01 22:16
手続書類	2015/10/14 10:55
	2015/06/22 14:09
報告会用	2015/12/11 14:20
2015_インターンシップ参加者一覧.xlsx	2015/12/08 9:16
インターンシップ授業改善プロジェクト.docx	2015/12/08 9:16
年賀状リスト インターンシップ関連.xlsx	2015/12/12 11:44
報告会の連絡(掲示).docx	2015/12/08 20:21

図1 ビジネスキャリア学科共有フォルダー「インターンシップ」

出席簿

(1/4ページ)

2359:インターンシップ
参加者名簿

【2015年度】

クラス0				届出	報告書	評価	総数	備考
No.	学籍番号	学年	氏名	/	/	/	/	
							21	
1	1512001	1						
2	1512002	1						
3	1512003	1						
4	1512004	1						
5	1512005	1						
6	1512006	1		8月5日	8月21日	10月16日	1	〇〇会社 8/17~8/21
7	1512007	1						
8	1512008	1						
9	1512009	1						
10	1512010	1		8月10日	8月24日	10月16日	1	〇〇会社 8/17~8/21
11	1512011	1		8月11日	8月25日		1	〇〇会社 8/12~8/24

図2 「インターンシップ」参加者名簿

5.2 授業における教職員の連携

インターンシップ情報の共有のみならず、授業においても教職員の連携を図った。インターンシップの重要性や意義については、就職支援を行っている学生総合支援センターの職員が話したほうが、学生にとっては理解しやすい。今年度の「インターンシップ」科目では、事前研修を5コマ設定したが、初回の1コマについては、キャリア支援部門の職員が就職活動時期との関連なども含めてインターンシップについて説明する時間を設け、学生総合支援センターの佐藤健一が担当した。その結果、学生は就職活動前の1年前期であってもセンターを気軽に訪ねるようになった。

5.3 必要書類の作成とティーチングポートフォリオへのアップ

「インターンシップ」を単位認定するにあたり、必要書類（表3）を作成し、学生がダウンロードできるように、大学のホームページのネット版ティー

チングポートフォリオにアップした（図3）。インターネット経由で書類を取得できるようにしたのは、ICT時代のビジネス現場ではPC操作やネット利用なしでは仕事にならないことを踏まえ、職業訓練としての教育効果を考慮したものである。なお、書類の作成に際しては、『ワークで学ぶインターンシップリテラシー 講義用指導書』（長谷川編著 2010）などの書籍や他大学がホームページで公開している資料を収集して何度も検討を行った。

学生には、事前研修時にも印刷した必要書類を配布し、正確な書類作成をすること、提出期限を厳守すること、返信用封筒には切手貼付を忘れないことなどの事務処理やビジネスマナーの基本について教えた。さらに、このような書類については、不備があった場合は改訂されるので、実際に自分がインターンシップに行く直前にティーチングポートフォリオから最新版をダウンロードして準備すべきであるという説明を添えている。

表3 インターンシップ書類

①学生に対する説明文	【重要！】インターンシップをするにあたって
②受入先企業に依頼文書	様式1（インターンシップ評価のお願い）
	様式2（インターンシップ活動評価表）
③学生が提出する文書	様式3（インターンシップ実施届）
	様式4（インターンシップ活動報告書）



図3 ティーチングポートフォリオ画面

5.4 キャリア支援団体からの協力と情報収集

インターンシップ先企業の確保や授業内容の向上を図るため、仙台市内に本部をもつ公益財団法人と一般社団法人に協力を依頼したことは先に述べたが具体的な依頼内容は以下のとおりである。

まず、前者は短期インターンシップを中心に地域の中小企業にインターンシップ生を紹介している団体であり、2014年度に仙台青葉学院短期大学の学生も支援を受けている。ビジネスキャリア学科では2015年度の「インターンシップ」の単位を、事前研修5回受講の後、35時間以上の実習の実施、それに対する企業側からの評価と学生本人の報告および発表により認定することにした。この団体には事前研修の3回分を依頼し、その際にインターンシッププログラムとインターンシップ生の募集について説明をお願いした。そして、今年度は学生2名がインターンシップ先を紹介していただいた。

後者は長期インターンシップを中心に、地域企業に学生を紹介している団体であり、短期インターンシップについてはあまり実績がないとのことであったが、短期大学の時間割や授業カリキュラム等の状況を考慮して、仙台青葉学院短期大学向けの短期インターンシッププログラムを開発・提供いただいた。この団体の事務所でのインターンシップ（実習内容はイベントの取材）には学生10名が参加し、また、建築事務所を紹介していただき、こちらには2名の学生がお世話になった。

6. 単位化した「インターンシップ」授業の運営と教育効果

6.1 単位認定と評価の方法

2015年度にシラバスを改定するにあたっては、宮城県内の大学・短期大学および全国の短期大学のシラバスを参考にした。その上でビジネスキャリア学科の学生の資質や短期大学であることによる制約（例えば、修業年限が2年と短いためインターンシップに参加できるのは実質1年夏休みと冬休みになることなど）を考慮し、授業計画や成

績評価の方法を検討した。

その結果、2015年度の「インターンシップ」は、事前研修（集中講義）90分×5コマを受講した後、自分で開拓したインターンシップ先で実習を35時間以上を受けて、受け入れ先企業から「評価表」をもらい、学生本人は「報告書」を提出しインターンシップ報告会で発表を行い、相応の評価が得られれば単位取得に至るという流れにした。評価は受講態度30%、報告書25%、受入先の評価25%、発表20%で決定することとした（詳細については、『2015年度シラバス 仙台青葉学院短期大学五橋キャンパス』を参照されたい）。

6.2 履修登録

表1のとおり、2015年度は1年在籍者149名全員に履修登録を行わせて事前研修を行った。「インターンシップ」は通年科目として設定した。よって、初めは実施する気がなくても後になって気持ちが変わる学生がいることも考慮し、その際に単位認定に結びつくよう、全員の履修登録としたのである。実際、外部の講師から授業を受けたことで、インターンシップに興味を持ち、問い合わせをしてくる学生もいたし、インターンシップに参加した学生の話聞いて自分も参加する気になったという学生もいた。よって、授業の提供方法としては、成功したといえよう。

6.3 インターンシップ事前研修

「事前研修」については、夏休み中にインターンシップに参加する学生が一番多いことを想定し、6月中に終わることにした。ビジネスキャリア学科の1年生での配当科目はほとんどが必修の上、学生数が149名と多いために教室の収容力の関係で2クラスや3クラスに分けて実施している科目も多い。そのため、大講義室で全学生に一度に受講させることは不可能であり、事前研修も3クラスに分けて実施することとなった。

集中講義でもあり、また、キャリア支援団体のキャリアコンサルタントや学生総合支援センター職員に登壇してもらうこともあったので、各回の

「インターンシップ」の授業日程				
第1回目	平成27年6月2日	火		単位認定の方法等 担当: 青山・小形・今井
第2回目	平成27年6月9日	火		自己理解と職業理解 担当: 外部団体
第3回目	平成27年6月16日	火	Bクラス-3期 Cクラス-4期 Aクラス-5期	職業理解(続き)・インターンシップ体験者座談会 担当: 外部団体
第4回目	平成27年6月23日	火		インターンシップのコミュニケーション 担当: 外部団体
第5回目	平成27年6月30日	火		報告書等の書き方 担当: 青山・小形・今井

インターンシップ 第1回					
時間	出席	出席	出席	内容	担当
日付	CPTA	APTA	神奈		
12:50				授業開始前(80分休憩)	小形
13:00	14:40	14:20	10分	1. 挨拶 2. 資料配布・シラバス、参事(サンプル含む)等 3. 自己理解 ①カードリーダーでスキミング ②名刺でチェック	青山 小形
13:10	14:30	14:20	10分	4. シラバスの確認訂正 5. 単位認定の方法	小形 小形
13:20	15:00	14:45	15分	6. 就職スケジュールの確認	佐藤(課)
13:40	15:20	17:00	30分	7. 報告書等の書き方	今井
14:10	15:50	17:30	30分	8. 受講上の注意	青山
14:30	16:10	17:50	(休7)		

図4 インターンシップ授業日程表と第1回講義スケジュール

講義スケジュールも作成するなどして、伝えるべきことがもれないように配慮した。キャリア支援団体の担当者にもクラス分けが発生したことにより、同じ研修内容を3回ずつ実施していただくことになったため拘束時間が昨年度の3倍となったが、快くお引き受けいただいた(図4参照)。

また、外部のキャリア支援団体に講義を依頼した場合であっても、科目担当者(プロジェクトメンバー)である青山・小形・今井が立ち会うようにして、司会をしたり、講義のサポートを行ったりした。また、次年度の授業改善につなげるために録画も行った。

6.4 インターンシップへの参加時期や時間帯

インターンシップへの参加時期や時間帯を確認してみると、13名が夏休み期間中、8名が平日の夕方17時半開始であった。前者は職場体験型、後者はビジネスキャリア学科向けに企画いただいたイベント取材型(次節参照)であった。やはり本学学生の場合は、時間割に余裕がなく、4年制大学の学生と違い、平日昼間にインターンシップに参加することは不可能であった。

6.5 インターンシップの内容

2016年1月18日時点で実習を終えた22名のインターンシップ先の内訳は、放送1名・飲食店1名・ホテル5名(以上学生が自己開拓)、介護1名・販売1名(前述の公益財団法人の紹介)、建築会社2名・イベント取材11名(前述の一般社団法人の紹介)であった。学生が自己開拓をしたインターンシップ先はホテルが多かった。また、基本的にはインターンシップ先は自分で見つけることとしていたが、実際は半数以上が、教員が協力依頼をした支援団体の紹介であり、イベント取材については、仙台青葉学院短期大学向けに実習内容を設定していただいたものであった。

6.6 インターンシップ報告会

インターンシップ報告会は、2016年1月18日(月)の5限に実施した。現在活動中の学生およびこれから活動予定の学生を除く22名が報告会に参加した。報告会の内容は①活動機関名および業種、②活動期間、③インターンシップ活動内容、④インターンシップで学んだこと、⑤質疑応答である。一人当たり15分の持ち時間で、活動内容を予めデータ化しパソコンとスクリーンを使用して行

われた。パワーポイントで資料作成するなどの工夫もみられ報告会にむけての取り組みも評価できるものであった。活動例をあげると、他大学生とチームで企業訪問し企業紹介の取材を行い記事にまとめネット上で紹介、ラジオ局でリスナーメールの分類・整理・データ入力、高齢者施設やホテルでの対人業務（図5参照）、建築企業での営業同行などである。インターンシップでの大きな成

果として、他大学の学生との交流、本学で学んでいる科目の内容がビジネス社会で必要不可欠であることの実感、“社会人”の動きや考え方を目の当たりにし自己啓発の機会を得たことなどが挙げられ、学生にとって有意義な活動であったことが報告された。

様式4

インターンシップ活動報告書（1/3）

提出日：XX年XX月XX日

学籍番号	1512XXX	携帯電話	090-XXXX-XXXX
ふりがな氏名	XXXXX	E-mail	XXXXXXXX@xxxxx
機関名	ホテル XXXXXX		
活 動 内 容	実習日	時間	具体的な内容
	8月13日(木)	17:00~22:15 (5時間15分)	移動日ということで、バックヤードやレストランなどの見学をし、物の位置や場所を確認した。その後17:00からホールスタッフを体験したが、分からないことばかりで覚えることだけで精一杯だった。短時間の中で協力が重要であることを改めて知った。
	8月14日(金)	7:00~11:30 17:30~22:15 (9時間15分)	朝食ビュッフェと夕食ビュッフェのホールスタッフをした。料理の補充や空いた皿の片付けなど周りを常に見ないと動けないことが分かった。立っているだけの仕事ではなく、常に動いている仕事だと感じた。目の前のことだけに集中するのではなく、臨機応変に対応していきたい。
	8月15日(土)	8:30~11:00 17:00~22:00 (7時間30分)	前日と同じく朝食と夕食のホールスタッフをした。朝食を済ませたお客様が帰ったあと、食器の片付けやホールの掃除をした。ホール内の掃除を時間内に終わらせることができず、午後へ回すことになってしまった。短時間で正確に仕事をこなす事ができるよう考えて行動していきたい。
	8月16日(日)	9:00~9:45 (45分)	施設見学ということでホテル内の見学をした。2階~8階まで約197客室(647名)で宿泊できる。また、タマンサリヘリテイジスパというものがあり、すべてインドネシアからの輸入品で達刈田温泉の源泉と秘伝のトリートメントの融合で美と健康に作用していることが分かった。
	8月17日(月)	7:00~11:30 (4時間30分)	7:00から朝食のホールスタッフをした。お客様にご飯を分けるときの声のかけ方に戸惑ってしまった。テーブルの皿を片づけるときには従業員の皆様に助けられることが多かった。ナプキンの量み方も教えていただいたので、早く覚え、普段の生活でも使っていきたい。
	8月18日(火)	14:30~16:00 17:00~21:15 (5時間45分)	いつもとは違う「みのり」という場所でホールスタッフをした。初めてコース料理をお客様一人ひとりに運んだ。料理の位置や向き、順番など初めて知ることばかりだった。料理を運ぶタイミングも非常に重要であることが分かり、今まで以上に周りに気を配らなといけなかった。
	実習時間計	時間 分	

確認日	XX年XX月XX日
担当者印	印

※インターンシップ終了10日以内に担当教員に提出のこと。

図5 学生が作成したインターンシップ活動報告書－ホテル業務

6.7 教育効果

今回のインターンシップを通じて、学生たちは受け入れ先の各組織に飛び込み、実際の業務を体験することによって、組織のプロとしての一人ひとりのスキルの高さと、顧客のニーズに応えるための専門知識の必要性、サービス業におけるきめ細やかな心配りなどに感銘を受け、仕事への心構えや働くことについて真剣に考えるようになった。また、報告会での発表のとおり、履修科目が実務に直結していることを実感することができた。

他大学の学生と共にインターンシップを実施した学生においては、臨む姿勢や積極性の違いを感じ、客観的に自己の振り返りができた。

このように、日々の業務を経験することにより、組織活動の仕組みを知り、社会人としての責任と自覚をもち、働くことの意義について考えるなど、さまざまな気づきを繰り返して今後の課題を見つけ出すことができた。その結果、目指すべき目標が明確化されたことがインターンシップの成果といえよう。

7. 今後の課題

今後の課題は、以下のとおりである。

7.1 参加学生の少なさ

2015年度のインターンシップ報告会（2016年1月18日）時点でのビジネスキャリア学科1年生の在籍者数は146名（休学者除く）であり、そのうちの23名が単位取得見込である。よって学生全体に対する参加率は15.8%となり、2014年度の0.18%（1年在籍者113名中2名が単位取得）に比べて大幅にアップした。文科省発表の2013年度大学生のインターンシップ参加率2.4%に比べてもはるかによい数字と言える。なお、ビジネスキャリア学科の2013年度の単位取得率は24.3%（1年在籍者119名中29名が単位取得）と2015年度に比べ8.5%高い数字となっているが、インターンシップ日数を個々のケースに対応させたり、授業期間でのインターンシップを認めたりするなど、2015年度より単位付与の基準が低めであった。

今後は、実学教育を重視する本学の教育方針や昨今の即戦力を求める企業側の期待を考慮し、学生の参加率をもっと高めていきたい。

7.2 受入先企業や職種の偏り

インターンシップ受入先企業や職種については、短期大学であること、インターンシップの単位化が始まって3年目と日が浅いことということもあり、先述したような偏りがみられた。学生がもっと自己開拓をして多種多様なインターンシップ先企業や職種に実習に行くよう、インターンシップ先の探し方等を指導していかなければならない。

7.3 インターンシップとGPAとのかかわり

2010年3月には「大学は、当該大学及び学部等の教育上の目的に応じ、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うことができるよう、大学内の組織間の有機的な連携を図り、適切な体制を整えるものとする」¹⁾と大学設置基準が改正された。インターンシップへの参加は、実際の業務を体験し、ビジネス現場についての理解や関心を深め、就業意識が養え、将来のキャリア形成にも役立つ。本学ではインターンシップ活動前に学内講義を5回受講することを義務付けている。また近い将来役立つことから本学科ではインターンシップの履修登録を推奨している。

しかし、課題がないわけではない。インターンシップの活動時期と授業期間との兼ね合いで調整がつかないなど、インターンシップの活動を断念せざるを得ない学生も多い。6.1 単位認定と評価の方法で示したとおり、企業研修を行わなければ単位認定はできない。また、本学では平成28年度からGPA(Grade Point Average)が導入される。これまでは、実際に企業研修の機会に恵まれなかったとしても、インターンシップの事前授業参加には大きな意義があると判断し、学生には積極的に履修登録を推奨してきた。しかし、GPA導入により、企業研修を行わなければ評価は0となるが、

履修登録をすることにより母数となる単位数が増えるため、結果的にGPAポイントが下がることになる。

本学科には多くの選択科目が用意されており若干の興味があれば履修登録をさせてきたが、実際は単位取得に至らない学生もいる。履修登録とGPAポイントとのかかわりを説明し、さらに学生の学習意欲が低下しないよう履修登録の指導を行うことが学科にとっての喫緊の課題である。

7.4 成績評価の難しさ

受入先企業の負担を減らすため、学生に対する評価項目を、就業態度、積極性、協調性、向上心、業務遂行度の5項目としてA～Eの5段階で評価し、必要に応じてコメントを記載していただく「インターンシップ活動評価表」(図6)を作成したが、数名の担当者から「評価の基準を示してほしい」とのご要望をいただいた。

一方、評価が面倒なので、単位認定には関わりたいくないという企業もあり、評価表の設計の難しさを感じた。単位認定のための成績評価は、受講態度30%、報告書25%、受入先の評価25%、発表20%としているが、受入先の評価には担当者の主観が入ることも踏まえなければならない。

7.5 保護者への周知

インターンシップについては、保護者に承諾を得て参加をするよう、事前研修等で指導をしていたにも関わらず報告を怠ったために、直前でキャンセルに至った学生がおり、受入先企業に迷惑をかけた事例があった。インターンシップは研修であるので、多くの場合、報酬が支払われないが、家庭の経済的事情からか保護者がそのことに納得できなかったのである。

今後は、インターンシップとアルバイトの違い、通常の授業と学外研修との違い等々、学生のみならず保護者も理解できるよう、入学時の学生向けオリエンテーションや保護者会でも、事例を示すなどして説明しておくことも必要かと思われる。

8. おわりに

2015年度「インターンシップ授業改善プロジェクト」では、教員3名が試行錯誤しながらも、「インターンシップ」の授業を単位化に見合うレベルまで引き上げたと自負している。

しかしながら、「インターンシップ」は、その時々雇用経済情勢や入学者の状況によって、受入先企業の種類や数、そして内容も違う。また、大学によっては、教職員が持ち回りで担当している。いずれにしても、学科として正課科目として継続して単位を付与していくのであれば、いつ・

インターンシップ活動評価表					
受け入れた学生に対し、以下のように評価いたしましたので、ご報告いたします。					
1. 受け入れ学生名		学籍番号:		氏名:	
2. 評価項目					
項目 ※1	就業態度	積極性	協調性	向上心	業務遂行度
評価 ※2					
※ 評価の基準 A 非常に良い B 良い C 普通 D やや劣る E 劣る					
3. 大学への連絡事項・要望など					

図6 インターンシップ活動評価表

誰が対応するにしても、教育の質が保証される授業運営や成績評価が行えるよう、改善をしていくことが求められよう。

謝辞

本プロジェクトの実施にあたっては、学内外から多くのご協力やご指導をいただきました。この場をお借りして、関係各位に改めて感謝申し上げます。

また、本報告書の審査に際し、査読者から「たとえば客観的に自己を分析し、目指す進路を達成するために、①学生が目指す卒業後の進路を考えたインターンシップ。②専門分野を視野に入れたインターンシップ」が必要であり、「学科単独でできるものではなく大学の組織力を借りて、受け入れ先の企業を見つけなければならないと思います」との貴重なご助言・ご意見を頂戴いたしました。ここに記して御礼申し上げます。

【引用文献】

- 1) 大学設置基準及び短期大学設置基準の一部を改正する省令の施行について(通知), 平成22年3月12日

【参考文献】

- Gouldner, A.L. “Cosmopolitans and Locals : Toward an Analysis of Latent Social Roles” . Administrative Science Quarterly, Vol.2. pp.444-480, 1958
- 長谷川文代編著・飯塚順一・小松由美『ワークで学ぶインターンシップリテラシー講義用指導書』西文社, 2010
- 文部科学省高等教育局専門教育課「平成27年度インターンシップ等実務者研修会資料 インターンシップの拡大に向けた施策について」, 2015